

ユダ木工株式会社



【会社概要】

ユダ木工は木製ドアの専門メーカーです。玄関・室内の開戸・引戸、断熱ドア・防火ドア等、様々な木製ドアを揃えています。職人による丁寧な手仕事を重ねた一級品、そして本物の木だけが持ち得る経年の風合いの価値を実感していただける製品を、心をこめて製作しております。

■ 国産材活用

現在、弊社で製造している木製玄関ドアの85%が国産桧製です。地域材を活用し、環境保全、里山保全の取り組みを応援しています。皮など製品にならない部分はバイオマスボイラーの燃料として活用し、丸太一本全てを無駄なく使います。

■ 「高断熱」木製玄関ドア

木製ドアの専門メーカーとして、日本に世界基準の木製ドアを提供したいという思いで開発に取り組んでいます。2018年発売の「超断熱ドア」はUw値=0.82W/m²Kを誇ります。快適で環境に優しい暮らしを支える高断熱・高气密の木製ドアです。

【トピックス】

引戸ふたたび！高性能木製玄関引戸

日本の伝統的な建築デザインである引戸が、現在注目を集めています。ユダ木工はとことんディテールを追究し、今までになかった高性能木製玄関引戸を実現させました。(断熱性能：Uw値=1.92W/m²K H-5等級)

- 工場見学を随時受け付けております。
お近くにお越しの際は、ぜひお立ち寄りください ●

【会員へのメッセージ】



代表取締役 湯田 卓氏

再生可能資源の活用など、持続可能な社会に向けた取り組みは世界的な課題となっています。ユダ木工は「本物の木」を扱う企業として、「葉っぱの世紀のはじまり。」というスローガンを掲げました。自然の循環を守り、暮らしに活かし、木とともに生きる。それがユダ木工の製品づくりの根幹です。

第13回イノベーション勉強会(アトリエデブ) 開催報告



5/13 ~ 5/14 の5日間、アトリエデブ八ヶ岳営業所(長野)にて、第13回イノベーション勉強会を開催いたしました。

1日目は、五感を刺激するコミュニケーション手法を学ぶため、かまどご飯と薪割り、そしてアトリエDEF循環畑をお借りしての畑作業を体験。モデルハウス「循環の家」や「家具工房 木ずな」「エコラの森」「完成邸」も見学させていただきました。2日目の勉強会では、アトリエDEFの理念、これまでの取り組みと今後の展望・イベントや広報活動についてお話いただきました。今回の勉強会を通じ、「家づくりの枠を超えた命が喜ぶ丁寧な生き方、暮らし方とは何なのか？」を学び、「地域工務店のミッションとは何か？」を考える充実した機会となりました。

第4回 若手設計者の施工技術スキルアップ研修会 開催報告

5月17日(金)開催の第4回目の研修会は、「木の家設計・施工フォーラム」の発起人でもある建築家泉幸甫氏が設計された低層集合住宅『Apartment 惣(そう)・鶯(じゅん)』を見学しました。

講義「外構を考える」では、外構によって住宅の魅力をつくり出す設計手法や、地形を活かした様々な建築方法を教授いただきました。

段差がある土地の形状を活かした階段やテラス。あえて樋を高くして水を落とす池など、日本人の美意識に働きかけ、また人々の視線に触れる細やかな外構設計の数々。“どこまでも人を豊かにする本物の設計”を学ばせていただきました。



地球の会 Vol.54
NPO法人 環境共生住宅

2019年6月30日発行
〒530-0022 大阪府北区浪花町1-23 第10新興ビル601
TEL06-6292-8121 FAX06-6292-8122
e-mail: info@chikyunokai.com
http://www.chikyunokai.com
発行責任者：安成 信次

『カーボン・オフセット認定制度』運用開始のご案内

日本の山は、国産材による家づくりを行う私たちはもちろん、日本人にとってなくてはならない存在です。カーボン・オフセット認定制度は、日本の山の住宅や林業関係者、そして建て主が一体となって、山を守り未来に循環させるための制度。6月より申請受付を開始します。

■ カーボン・オフセット認定制度 概要

従来のCO₂固定量認証制度に加え、今回新たにスタートする制度が『カーボン・オフセット認定制度』です。この2つの制度は日本の木の家認証制度に含まれます。

日本の木の家認証制度

CO₂固定量認証制度 + カーボン・オフセット認定制度

カーボン・オフセット認定制度は、“国産材による家づくり”とCO₂の削減や吸収の取り組み(植林や間伐などの森林保護活動)“をセットにして、取り組みを推進する制度です。住宅関係者のみならず、一般の建て主も参加できる、いわば「山への恩返し基金」です。

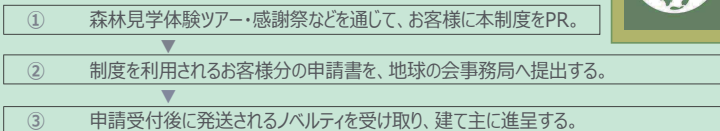
■ 制度策定の展開の狙い

企業の実績に対する取り組みは、お客様と良好な関係を築くためのCSR(企業の社会的責任)の意味合いが強くなりました。一方で、このカーボン・オフセット認定制度には、地球の会会員が持つ強み(国産材による家づくり、森林保全など)を積極的に活用し、社会課題を解決しながら他社と差別化を図り、自社の持続的な成長を図るCSVや、ひいてはSDGsの考え方が走っています。そして、この制度を推進することにより、SDGs(エスディージーズ/2030年までに達成すべき世界共通の目標)達成に寄与する狙いがあります。

■ 制度利用のメリット

- ・ 工務店にとって、自社のブランディングやファンづくりに繋がっていただくことができます。
- ・ 建て主の家づくりを通じて、森林保護活動に関わっていただけます。
- ・ 竣工記念として建て主に「杉の間伐材」を用いた素敵なプレゼントを進呈しています。

■ 制度利用の流れ



■ 申請受付月

申請は半期毎(6月・12月)になります。 ※2019年6月より制度開始

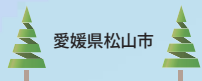
2019年6月申請	2018年12月~2019年5月【引渡し分】
2019年12月申請	2019年6月~2020年11月【引渡し分】

■ 申請費用 及び 申請方法

申請費用は21,000円(1棟のオフセット量は1t)からとなります。申請していただくにあたっては、「オフセット申請書」に必要事項をご記入いただき、メール又はFAXにて、地球の会事務局までお送りください。
※本制度について、詳しくはHPをご覧ください <http://www.chikyunokai.com/authentication/>



新日本建設株式会社 代表取締役 井上秀明 氏



愛媛県松山市

変わらない想いを胸に
視線は一步先の未来へ。

安心して暮らせる
住まいの提供。

<https://www.shinnihon.ehime.jp/>



“杉の磨き丸太”を使用した吹抜けのリビング

“えひめの森”とサプライ チェーンマネジメント

「木は自社の山から持ってきます。市場から木材を仕入れることはあまりありません。苗木から大切に育てた木を伐採し、自然乾燥した木材を使用しています。自社の山林の木材を使用することは大きな売りになりますね」。そう力強く話すのは、愛媛県松山市にある新日本建設株式会社の井上秀明社長。
異色の経歴を持つ井上社長は、もとは自衛隊出身。21歳で自衛隊を除隊後、ALC外壁の職人をしながら2級建築士を取得したという。勤務先の倒産をきっかけに29歳で独立。そして立ち上げた会社が新日本建設だ。愛媛で年間40棟を手掛ける新日本建設は、他の工務店よりも木材の使用量が多く、骨組みが大きいと名高い。それはもちろん、自社保有の山林“えひめの森”の存在が大きい。さらに“えひめの森”で育てた木を伐採し、皮はぎ・製材・加工や小売を、関連会社で行うサプライチェーンマネジメントが住宅のコストを押し下げている。

愛媛の林業家・木材業界では有名な“えひめの森”。
一般の顧客はモデルハウスでその森の恵に出会うことになる。



新日本建設社屋（外観）

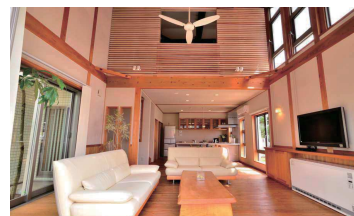
モデルハウスでの 感動宿泊体験

宿泊可能なモデルハウス「久保田の家」。
入ってすぐ、囲炉裏のある玄関土間が出迎えてくれる。吹き抜けで開放感のあるリビングに、檜の通し柱、無垢材の柱と梁が美しい。
とりわけ、顧客が感動するのは、モデルハウスの松を使用した無垢材の床。冬に裸足でもとても心地良い。松の床より床の敷物の方が冷たいことに顧客はみんな驚くという。顧客アンケートでも『床が心地良くて感動した』と多くの方に支持されている。

一般的に床の木材には、杉が使われているが、なぜ松を使用するのだろうか？「やわらかくて油分が少ない杉の床を使うと、物を置くと凹みができたり、飲み物をこぼしてしまうとシミになります。それに比べて松の床はしっかり油を含んでいるので年々艶が出て良い色に変わります。シミにもなりにくいですよ」。
モデルハウス「愛媛新聞住宅公園PAL」では、自然乾燥させた“えひめの森の木”を100%使用するなど、コンセプトが異なる複数のモデルハウスにおいても、存分に森の恵が使われている。



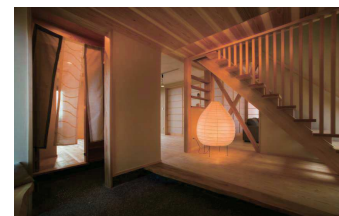
「モデルハウス 久保田の家」囲炉裏のある玄関土間



「モデルハウス 愛媛新聞住宅公園 PAL」解放感のあるリビング



「モデルハウス 久保田の家」（外観）



「モデルハウス 西条の家」木目が美しい玄関と階段



自然素材のシノ&ル “杉の磨き丸太”

圧巻！シンボリックな 丸太の大黒柱

モデルハウス「久保田の家」のポーチでは、“杉の磨き丸太”が多くの来訪者を出迎えている。通常、外部の軒桁に使用する丸太を、新日本建設では飾り柱として自社のシンボルにしている。
顧客の多くは、モデルハウスで9メートルもの“磨き丸太”に圧倒されて、一目で気に入るそうだ。年に10件程、大黒柱として吹き抜けに設置して欲しいと依頼が来る。「世間一般のモデルハウスのように、家の外部に本物の木を使うと色褪せてきますので、家の内部に丸太を設置しています。“磨き丸太”は自社の山の木を使うことができる新日本建設のシンボルであり、私の家づくりのこだわりです」と井上社長。
まだ無垢材の住宅が主流ではなかった時代に、自然素材のシンボルとして“磨き丸太”を吹抜け1軒目に使用。それから15年経った今も、そのこだわりを守り続けている。

安心の追求 ワンランク上の家づくり

木を育て、製材にし、家を建てる。そんな新日本建設は、国土交通省

が認定する“長期優良住宅”を全部で取得している。その他、平屋や2階建てを含む全ての家に、最高レベルの耐震等級3という高い耐震性能の家を建てている。これは建築基準法水準の1.5倍の耐震性能を持つ。それ故に、地震保険の耐震等級割引では50%という高い割引が適用され、顧客の保険料負担の軽減に貢献している。さらに、筋交いと根太レス工法を併用し、床の強度を基準の2.8倍にすることに成功。安心を追求し続けている。
「工法だけでなく、当社では葉枯らし乾燥した木材を使用しています。手間暇はかかりますが、油分が多くなり強度が確保できる上にとても健康に良いんですよ」。

一步先の住宅に 重要な医療との連携

「健康に良い木材を使用し、ゆくゆくは医療との連携に力を入れていきたいと考えています。というのも、健康に良い木材を使用した気密性・断熱性の高い住まいに移ると、気管支喘息やアレルギー性鼻炎など、健康を害する諸症状が改善されたとの報告があるからで

す」。井上社長曰く、世の住宅環境は高気密化で、接着剤や合板を使った住宅の増加と並行してアレルギーやシックハウス症候群の発症も増えているという。
また、良質な国産材を使用することで嗅覚からも良い影響を受けることがあるそうで、「“森の香り”が住む人のストレスを軽減してくれる。さらに集中力を高めてくれるんですよ」。
井上社長は、良質な国産材と医療と健康の関係を研究・実験するため、現在は愛媛大学医学部の中にモデルハウスをつくることを視野に入れている。
「モデルハウスで宿泊体験をさせていただくと実際に体感していただけたと思いますが、血圧が下がり自律神経が抑制されます。他に、入浴時や部屋の移動における急激な温度差により心筋梗塞や脳出血を引き起こす可能性が低くなります。今後は、医療機関とどの様に組んでいくかを前向きに検討し、自然素材の家づくりを極めていきたいと思っています」と井上社長は語る。
山と家と医療の連携。
新日本建設の挑戦はさらに進む。